

音楽科学習指導案

日 時 令和3年2月16日(火)
 6校時 14:25～15:10
 学校名 文京区立 駕籠町小学校
 対 象 第3学年2組 30名
 会 場 4階 音楽室
 授業者 指導教諭 金田 美奈子

1 題材名 音が重なり合うおもしろさを感じ取ろう (小学生の音楽3:教育芸術社)

2 題材の目標

- (1) 旋律の重なりや反復、変化と曲想やその変化との関わりについて気付く。
- (2) 旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。
- (3) 旋律の重なりや反復、変化と曲想との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。

3 指導事項との関連

B 鑑賞(1)ア イ [共通事項] (1)ア

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素: 「音の重なり」「反復」「変化」)

4 題材の評価規準

知識・技能(知・技)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<p>知 旋律の重なりや反復、変化と曲想やその変化との関わりについて気付いている。</p>	<p>思①旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考えている。</p> <p>思②旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p>	<p>態①旋律の重なりや反復、変化と曲想との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

5 児童の実態と題材設定の理由

本校では、今年度新型コロナウイルス感染拡大を受け、年間指導計画を入れ替えた。それを踏まえて1学期は、4月の休校時から、ホームページで歌唱や器楽を中心とした学習内容を提示し、「家庭学習カード」を配布することで家庭学習を習慣付けた。学校再開後は、「知識」の習得、「思考力、判断力、表現力」の育成、「学びに向かう力、人間性」の涵養は学校で、「技能」の習熟は引き続き家庭で学習するようにした。2学期からは、教科書を顔の前に持ち、マスクを着用した状態で歌う活動を実施し、さらに10月よりリコーダー等の指導において、音楽室で階名や運指等の確認をした後、屋上で隣との間隔を開け、一列で演奏する活動を実施した。しかし、3学期は緊急事態宣言を受け、マスクを着用した歌唱と管楽器の演奏は実施できなくなり、全ての学年で鑑賞の学習を中心に、管楽器を使用しない器楽、音楽づくりの題材を実施している。

第3学年の児童は、音楽の学習に進んで取り組もうとする児童が多く、特に友達と声を合わせて歌うことができる歌唱表現や、体を動かしながら音楽を形づくっている要素を知覚・感受したり楽器の音色について自分が感じたことを発言したりすることができる鑑賞の学習を好む傾向が見られる。鑑賞の題材としては、リコーダーの鑑賞曲や「メヌエット ト長調」(ベートーベン作曲)において「音色」から曲や演奏のよさに気付く学習を設定した。この学習を通して「音色」について感じ取ったことを言葉で表し、それを友達と共有することで音楽の語彙を増やすことができた。3学期は、旋律の動きや反復を知覚・感受しながら「トランペット吹きの休日」「アレグロ」を聴く学習、お囃子の打楽器の音色や「神田囃子」の「投げ合い」の締太鼓のリズムに親しみながら「祇園囃子」「ねぶた囃子」「神田囃子」のよさや面白さに気付く学習をした。

今回の題材で〔共通事項〕として取り上げている「反復」「変化」については、2学期の「三三七拍子のリズムを基にした音楽づくり」において「反復」や「変化」という仕組みを使ってまとまりのあるリズムづくりに取り組んだ。ここでは、どのようなリズムモチーフを反復させ、そのあとの「七拍子」にあたる部分とどのように組み合わせ、変化のあるリズムに構成するかについて思いや意図をもち、一人一人がリズムをつくることができた。

また、「音の重なり」については、今年度2学期に「あの雲のように」のリコーダーによる合奏の学習で2つの旋律がどのように重なっているのかをCDで聴いたり実際に演奏したり楽譜を見たりしながら聴き取り、重なり方によってどのような曲想になっているのかを学習している。ここで、「斉奏」から「カノン」のようになり、最後に「同じリズムで違う音が重なる」ことに気付くことができた。

本題材では、まず第1時で「歌おう声高く」で斉唱から主旋律とオスティナートによる合唱へと変化している曲の構成を学習する。その後、「かね」の「ア」を聴き、「おもなせんりつ」と「かねのせんりつ」が重なっていることを知覚・感受する。第2時では、「旋律の重なり」についてさらに感受を深めるために、「かねのせんりつ」と即興的な旋律を重ねる音楽づくりの活動を設定する。第3時では、「かね」を最後まで聴き、楽曲全体の反復と変化について知覚・感受することで曲全体を味わって聴く活動を設定する。第4時では学習のまとめとして、担任に伝える紹介文を書く活動を設定する。

このような活動を通して「旋律の重なり」「反復」「変化」について、音楽から知覚・感受したことを、言語という客観的なものに置き換え、さらに実際に音楽をつくる活動を通して自分の思いや考えをもち、音楽や演奏のよさを味わうことができる能力を育成していきたいと考え、本題材を設定した。

6 教材について

『アルルの女』第1組曲より「鐘(かね)」(ビゼー作曲)

戯曲「アルルの女」のために作曲された付随音楽であるが、単独で演奏されることが多い組曲である。劇中、花飾りなどの準備で忙しい祝祭日の朝の場面で演奏される音楽で、全体に華やいだ気分が満ちあふれている。アの部分では、鐘の音を模した3音の繰り返し(かねのせんりつ)とそれによって演奏されるもう一つの別の旋律(おもなせんりつ)が重なっている。また、イの部分ではフルートの旋律と弦楽器による旋律が重なっており、「かねのせんりつ」はないが、アに戻る前のつなぎの部分で、遠くから響いているように再び「かねのせんりつ」が登場する。このように、鐘を表す旋律(かねのせんりつ)が最初と最後に繰り返されているため、「アーイーア」の構成が分かりやすい。

『歌おう 声高く』(花岡恵作詞 長谷部匡俊作曲)

「かねのせんりつ」のオスティナートと旋律の重なりを知覚・感受させるために作曲されている楽曲である。旋律のリズムに反復が多く、児童が容易に歌うことができる楽曲の構造となっている。前半は斉唱、後半は「かねのせんりつ」のオスティナートと旋律が重なって合唱になっている。

※今回は緊急事態宣言中のため、参考楽曲として取り扱う。

『黒鍵5音音階による音楽づくり』

黒鍵の5音音階を活用し、「かねのせんりつ」のオスティナートに合わせて黒鍵による3拍子の即興的な旋律づくりをする。「かね」のアの部分の旋律の重なり方を表現で確認し、アとイの変化の知覚・感受を深めるための手段として設定し、児童が「オスティナート」「即興の旋律づくり」「聴き手」に分かれて活動し、演奏を聴いて思考することができる学習形態とする。

7 題材の指導計画と評価計画(全4時間)

時	目標	○ 学習内容 ・ 学習活動	評価規準(評価方法)		
			知・技	思	態
第1時	旋律の重なりや反復、変化と曲想との関わりについて興味・関心をもつ。	○旋律の重なり ^の 知覚・感受 ・「歌おう声高く」を聴く。 ・主旋律を歌う。 ・後半のオスティナートの旋律を歌う。 ・2つの旋律が重なることによる曲想の違いについて話し合う。 ・「かね」のAの部分 ^を 聴き、気付いたことや感じたことをまとめる。 ・手を動かしながら、主旋律を聴く。 ・指揮をしながら「かねのせんりつ」を聴く。 ・2つの旋律の重なり方について、気付いたことや感じたことを交流する。			態① (行動観察、記述)
第2時	旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える。	○2つの旋律による音楽づくり ・「かね」のA部分を聴く。 ・黒鍵の5音音階について知る。 ・木琴や鉄琴で黒鍵を使った短い旋律をつくる。 ・「かねのせんりつ」「音楽づくり」「聴き手」に分かれて2つの旋律の重なりをつくったり聴いたりする。 ・単旋律の時と旋律が重なった時との感じの違いについて、感じたことをまとめる。		思① (記述、発言、聴取)	
第3時 (本時)	旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるとともに、楽曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。	○旋律の重なり ^の 確認 ・主旋律と「かねのせんりつ」の重なり ^に 気を付けて、「かね」のA部分を聴く。 ・A部分の「旋律の重なり」と曲想との関係について、気付いたことや感じたことを確認する。 ○反復、変化 ^の 知覚・感受 ・曲の構成に気を付けながら「かね」を最後まで聴き、再現部で挙手をする。 ・曲の構成やそれぞれの部分での旋律の重なり方について、気付いたことや感じたことをまとめる。 ・A部分とI部分の旋律の重なり方の違いや、IからAへと変化する時の「かねのせんりつ」の重なり方に気を付けて、「かね」をもう一度聴く。 ・旋律の重なりや旋律の反復や変化と曲想との関わりについて学習カードにまとめる。 ・友達と考えを交流する。 ・旋律の重なりと反復や変化と曲想との関わりについて分かったことをまとめる。		思② (記述、発言)	
第4時	旋律の重なりや反復、変化と曲想やその変化との関わりについて気付きながら聴く。	○旋律の重なりや反復・変化と曲想とのかわりの気付き(理解) ・「かね」をDVDで鑑賞し、演奏している様子を知る。 ・旋律の重なりや反復・変化と曲想との関わりについてふれながら、「かね」の紹介文を書く。	①知 (聴取、発言、記述)		態① (行動観察、記述)

8 本時(全4時間中の第3時)

(1) 本時の目標

旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	☆ 指導上の留意点 配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・3拍子でくり返しのリズムをつくる。 <p>○本時のめあての確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆3拍子を感じながら「かね」を鑑賞することができるよう、3拍子の手拍子リズムを即興的につくる活動を設定する。 	
せんりつの重なり方に気をつけながら、くり返しやへん化を感じ取ってきこう。			
展開 30分	<p>○旋律の重なりの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律と「かねのせんりつ」の重なり方に気をつけて、「かね」のAの部分を聴く。 ・Aの部分の「旋律の重なり」と曲想との関係について、気付いたことや感じたことを確認する。 <p>○反復、変化の知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の構成に気をつけながら「かね」を最後まで聴き、再現部で挙手をする。 ・曲の構成やそれぞれの部分での旋律の重なり方について、気付いたことや感じたことをまとめる。 ・Aの部分とIの部分の旋律の重なり方の違いや、IからAへと変化するときの「かねのせんりつ」の重なり方に気をつけて、「かね」をもう一度聴く。 ・旋律の重なりや旋律の反復や変化と曲想との関わりについて学習カードにまとめる。 ・友達と考えを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆旋律の重なりを聴き取るために必要な動きをしながら聴くよう指示をする。 ☆前時での音楽づくりの活動での経験も踏まえて意見を言うよう助言する。 ☆「アイア」で構成されていることに気付くことができるよう、再現部で挙手をする活動を設定する。 ☆再現部で全員の挙手が揃わなかった場合には、IからAへと変化するとき「かねのせんりつ」がどのように出てきたのかを考える場を設定する。 ☆Aの部分(主旋律と「かねのせんりつ」とIの部分(フルートの二重奏と弦楽器の伴奏の重なり)の違いを聴き取ることができるよう、デジタル教科書やCDを活用する。 ☆「かねのせんりつ」を手で表すなどして確認するよう助言する。 	<p>思②旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。(記述、発言)</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の重なりと反復や変化と曲想との関わりについて分かったことをまとめる。 		